

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1270800814		
法人名	株式会社 安養介護サービス		
事業所名	グループホームあんよう荘		
所在地	千葉県市川市南大野2丁目30番17号 (電話)047-303-7866		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年5月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は「急速に進む高齢化社会の中で、高齢者が人間としての尊厳を失わず、明るく楽しく幸せに余生が過ごせる社会の実現を目指し、地域の社会福祉活動の中核として、高齢者福祉の推進を図り理想郷実現に邁進する」というトップの考え方と方向付けに基いた「理念」を掲げた地域密着型のグループホームである。建物・設備は増改築の為、必ずしもハード面は恵まれてはいないが、運営マネジメント、介護支援の工夫、家庭的な明るい雰囲気作りなどソフト面の対応で補完しているホームの運営は高く評価できる。特に残存機能自立支援を兼ねた大型貼り絵や布製の人形の共同制作は入所者にとっても貴重な楽しみであり、当ホーム独自の大きな特徴となっている。

【情報提供票より】(20年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	30 人	常勤 12人, 非常勤 18人,	常勤換算6.55人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋軽量コンクリート 造り		
	3階建ての 2 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,800 円	その他の経費(月額)	17,500 + 実費 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	13 名	男性	0 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	慈恵会吉岡医院、浮谷歯科医院、ラビット歯科、うつぎ会法典クリニック
---------	-----------------------------------

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善課題としては 運営理念のわかりやすい掲示、利用者に合わせて生活空間作り、相談苦情の受付の明示、は改善されたが、地域へのホームの理念、役割の理解促進、は今後の課題として残った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>現場職員が話し合いで作成した自己評価に、幹部の意見やアドバイスを受けて取り纏める等、当事業所の取組は全員参加の姿勢が覗える。当ホームは外部評価員研修の事例事業所にも選ばれており、経営幹部の理解も深い。評価結果の改善点も現場主導のボトムアップで改善検討される事で現場職員のモチベーションに繋がっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、半回開催されている。議題もホームの現状報告に始まり、料金改定、学習療法、介護保険問題、緊急時対応と病院との連携、介護職員育成、地域密着型サービス、防災訓練、感染症対策、外部評価結果等、多岐にわたる活発な意見交換が実施されている。特に今後の取組みとしては学習療法実現に向けての取組み、委員の意見を頂き今後の行事や外出支援の充実を図る等、着実に改善に繋げる努力が覗える。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>契約時に苦情相談窓口を明確に通知をして、不満、苦情の他に「住環境の改善」「外出介護要請」等、広く家族の要望も適宜受け付けている。ホーム内には社協の運営適正委員会の案内が掲示されている。直接事業所に寄せられる不満、苦情の収集は十分でない事から、家族会の開催や家族との話し合い機会を増やすなど、気軽に言ってもらえる雰囲気作りの工夫を期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当事業所は当該地域自治会に加入し、回覧板を通じて地域情報の収集及びクリーン作戦などの地域行事への参加によって、地域の人々との交流を深めている。また地域の中で高齢者福祉分野での相談の窓口となる役割を果たすべく努力している。今後高齢者共同居住者施設として地域への理解を深め、慰問交流ボランティアの促進の働きかけ努力を期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所は法人の社是「地域の社会福祉活動の中核として、高齢者福祉の推進を図り、もって理想郷安養世界の実現に邁進する」に基き、「私たちは、利用者の皆様に明るく楽しくゆったりとした生活を送っていただくための努力を惜しみません」を事業所理念として明文化している。		当事業所は理念をベースに地域社会における高齢者福祉活動の中核的な役割を果たすことを目指しているが、当事業所の地域における理解は十分でなく、地域住民との交流連携を深めた地域密着型サービスの役割を目指す具体策が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これらの理念は重要事項説明書に明文化する他に、事業所の各階にもわかりやすい文章で掲示されている。管理者と現場職員は日々の会話、コミュニケーションを通じて理念の共有を図り 理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当事業所は当該地域自治会に加入し、回覧板を通じて地域情報の収集及びクリーン作戦などの地域行事への参加によって、地域の人々との交流を深め、地域の中で高齢者福祉分野での相談の窓口となる役割を果たすべく努力している。		地域の人々との交流努力はあるも十分な理解が得られず苦慮されている。今後高齢者共同居住者施設として地域への理解を深める為、近隣の保育園や小学校の子供達による慰問交流ボランティアの促進を運営推進会議の議題にする等、弛まぬ働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は現場主任、フロアリーダーが話し合っって作成し、ホーム長、各階管理者の意見やアドバイスを受けて取りまとめている。評価結果の改善点は現場主導のボトムアップによる改善検討がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>過去1年間は2ヶ月毎、年6回開催されている。議題もホームの現況報告に始まり、料金改定、学習療法、介護保険問題、緊急時対応と病院との連携、介護職員育成、地域密着型サービス、防災訓練、感染症対策、外部評価結果など多岐にわたる活発な意見交換が実施されて、改善につなげている。</p>		<p>不満や苦情は事業所より地域包括支援センターに寄せられる事が多い。地域包括支援センターに寄せられた苦情、不満の事例を運営推進会議にて話してもらおう事で、事業所として他山の石とされることを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは、書類の提出時を含み月に1回以上は直接面談し情報交換をしている。地域包括支援センター(支所)には常にホーム空き部屋情報を紹介し、斡旋協力をいただいている。タウンミーティングに認知症キャラバンメイトとしての講師を派遣するなど行政との協働関係にも積極的に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への報告は来荘時、電話、電子メール、書面報告など、家族の状況や緊急度合いにより連絡形態を配慮している。定期的に日常生活の記録(含食事メニュー表)や介護支援経過、医療受診報告が毎月書面にまとめられ家族ごとに郵送されている。医療面で緊急を要する場合は即電話連絡され、来荘時にも必要に応じて近況の報告がなされている。</p>		<p>定期的な家族会の開催はないが、家族同士の交流の場を提供するために、ホーム行事開催の機会に、家族会を開催するなどの配慮を期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情相談窓口を明確にお知らせしているが、直接事業所に寄せられる不満、苦情の収集実績は少ない。「住環境の改善」「外出介護要請」など、広く家族の要望も適宜受け付けている。ホーム内には社協の運営適正委員会の案内掲示も行っている。</p>		<p>事業所では不満や苦情を話しやすいよう日常的にコミュニケーションが図られているが、不満や苦情は事業所より地域包括支援センターに寄せられる事が多いとの事。今後家族会の開催や個々の家族との話し合い機会を増やすなど、気軽に言ってもらえる雰囲気作りの更なる工夫を期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者にとってなじんだ職員のケアが受けられるよう、職員の固定化をベースに、現場職員の意見を取り入れながら、人員配置や毎月のシフト作成を行っている。</p>		<p>職員の離職などによって職員不足に陥り、毎月の人員配置やシフト作成結果は現場主任や現場職員の兼務対応による過負荷を招いており、何らかの負荷軽減支援策が望まれる。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年常勤職員には、介護保険連絡協議会専門部会の研修、県・市社協の身体拘束の研修、県認知症介護実践研修（実践者研修）をなるべく多くの職員が受講できるよう、職務を調整しながら研修計画を策定、実施している。</p>		<p>介護現場では、経験の浅い職員を一人立ちさせるため、介護しながらの職場内研修に日夜苦慮されている。しかしぎりぎりの要員配置でのシフトとなっているため介護及び研修とも不足感は否めず、職場内研修方法及びシフトの改善が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の介護保険連絡協議会専門部会、全国グループホーム協会、千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会、県・市社協、の会合、研修、講演会に参加する機会に、管理者、主任は同業者との交流があり、積極的に意見交換をしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当事業所では利用者の「帰宅願望」を少しでも軽減する為に、「介護に対してご家族の協力が不可欠」とのご理解を頂いている。ご家族と入所相談後、昼食会を設定し、利用者には少しでもホームの雰囲気を知っていただくための体験入居も必ず行っている。状況に応じて何度も繰り返すこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と喜怒哀楽を共にし、子供のしつけ問題やおしんこのつけ方、得意分野の裁縫など、利用者の昔の生活から教えてもらったりして、利用者の感情を理解しながら、共に生活する場としての支援を行っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向は日常の会話や発語から把握している。発語のない人は表情や動作を丁寧に観察することによって汲み取っている。特に、当事業所では家族と緊密なコミュニケーションしながら介護支援を行っており、面会時に交わす会話や電話での会話から聞き取った利用者の思いや意向を、主任を中心に介護職員間でその都度話し合う事によって、暮らし方の意向や希望を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画策定のカンファレンスには家族も参加し、意見を交換して介護計画に反映させている。当事業所では、利用者個人個人の心身の状況を毎日、ケース記録に時系列できめ細かく記録し、職員全員が閲覧して共有化を図っている。さらに家族にも毎月、医療・受診報告と介護支援経過の記録を書面で報告する等、共通理解のもとでカンファレンスを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに定期的に見直しをしている。利用者の心身の状況は日によって変化しがちであるが、今までできていたことが継続的にできなくなって、気力体力が減退してきたと判断されるときは定期の介護計画更新を待たず、介護計画を変更している。特に入院前と退院後では心身の変化が大きいことが多いので、変化に合わせた見直しに心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望に対しては、できることできないことを十分話し合った上で、柔軟な介護支援を行っている。在宅の認知症の利用者に対しても、体験入所を要望に基き弾力的に対応している。将来的には地域の高齢者が来荘し、気楽に食事をしてもらいたい場所にしたいと考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所に入所後に協力病院をかかりつけ医にするのも、入所前のかかりつけ医を続けるのも希望に応じて対応している。受診は家族の付き添いを原則にしているが、事情によって家族が付き添えない場合は事業所側で対応している。協力病院の内科医師が毎月1回以上往診に来ており、眼科、歯科医師も同様に月1回以上は往診に来ている。受診結果については家族に電話と記録で、きめ細かく報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者の心身の状況が減退してもできる限り事業所側で介護していく考えであるが、重度化して特別養護老人ホームや介護療養型医療施設がより適していると認められる場合は当該施設を勧める方針で、その旨は入所の相談があった段階で家族に説明している。終末期には医療系の施設に託したいと考えている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけは命令口調や指示口調にならないように気をつけている。トイレへの誘導もさりげなく、他の利用者に分からないように声かけをしている。外出先では心身の状況などプライバシーに関わることは話さない。また、利用者に関わる個人情報を記録しているパソコンは1階事務室に設置しており、パスワードを持っているホーム長と計画作成担当者(介護支援専門員)だけが操作できる仕組みになっている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者別に週間サービス計画表を作成して、介護支援スケジュールにしているが、起床・終身時間、食事時間など日常生活ペースは決められたスケジュールにこだわることなく、利用者のペースを優先させている。レクリエーションも参加するしないは利用者の自由にしている。また、以前は好きだったと家族から聞いていることも、現在は別のことが好きだという利用者もいるので、固定観念にとらわれず、利用者の思いや状況を常に汲み取って支援している。</p>		<p>ベテラン介護職員は利用者の意向を日常の行動や会話から把握する優れた技能を習得して、レベルの高い利用者支援に生かしているが、経験の浅い職員も早期に利用者の意向を把握できるように、職場内研修を充実して、事業所全体の介護レベルの向上を期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者は自分のお気に入りの茶碗・おわん・湯飲み・箸を使っている。月に一度は利用者の希望を取り入れたお好み食を実施している。また週に一度のパン食の日は利用者の好きなパンを自分で買いに行っている。職員は介助を兼ねて、同じテーブルに着いて一緒に食べている。また食事に集中できるようにと利用者自身がテレビを消し、利用者個人個人のペースで召し上がっている。食後はテーブルを囲んで、今日の料理の感想から郷土の名物料理に話題が広がるなど、利用者にとって楽しい食事のひとつをつくりあげている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴の曜日、時間などは利用者の希望を聞いて実施しており、衣服の着脱から入浴まで介護職員とマン・ツー・マンで入浴している。一人ひとり入浴しているので、プライバシーにも十分配慮ができています。入浴拒否をなさる方は無理せず、会話や話題で気分転換を図って、納得してから入浴していただくなど、利用者の気持ちへの配慮がゆきとどいています。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>当事業所では食事・洗濯・掃除など日常生活を生活リハビリとして位置づけている。昔取った杵柄や趣味など得意なものを役割分担している。役割はお好み食の献立作り、食材のチェック、テーブル拭きなどから散歩を含めて20数項目にわたっている。レクリエーションも貼り絵、マスコット作り、編み物、ゲームなど多彩に用意されている。中でも貼り絵は利用者全員と介護職員が共同制作して、たたみ半畳ほどの大作を作り上げ、楽しまれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホーム行事として菖蒲園などに出かけることもあるが、日常的には近くのスーパーに利用者自身が使う日用品や当事業所で使う物品などを介護職員と一緒に買いに行ったり、近隣の草花の観察に数人で出かけたりしている。パン食の日のパンは利用者が自分の好きなパンを買いに外出している。また、家族にも外出の協力をお願いしており、休日には家族と一緒に外食を楽しむ利用者もいる。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>近隣に空き巣が多く、外部からの侵入があるので、チャイムをつけたり、オートロックをつけているが、中からは開けられるようになっている。帰宅願望の利用者は常に見守りをしているが、突然無断で買い物に出かける利用者もいるので、同じビル一階の楽器店にも見守りの協力をお願いしている。</p>		
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年間計画で2回の避難訓練を消防署員立会いで実施している。夜間の避難については警備会社と5分以内に駆けつけてくれる契約をしている。また、消防署も事業所に近く、火災の場合は5分以内に救助に来るので、火元から遠いベランダに避難するように指導されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の食事摂取量を記録しており、日常的に水分摂取量の少ない利用者については摂取量を記録して、栄養摂取支援に配慮している。また、食事は食べやすいように、小分けできる小皿を配るなど工夫している。水分については家族と相談して、お茶・清涼飲料水・コーヒーなど好みのもので水分を補給している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>近所から頂く切花を飾り季節感を出したり、やはり近所から頂いた着物をほどこき、それを材料にして、利用者が小物の人形を作って玄関に飾っている。また、共同制作した貼り絵もリビングに掲示するなどの雰囲気づくりをしている。BGMも利用者の好みで演歌やクラシックを選曲し、癒し環境づくりの工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には火と刃物以外は慣れ親しんだ日用品や家具、仏壇など利用者の好みのものを持ち込んでいる。そのほか、家族の写真や自分の作品なども飾って、利用者にとって居心地の良い居室空間作りにも配慮している。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。